

1 単元名「灯りを意識した立体表現から広がる自由な創造力」

2 題材名「灯りが生み出すカタチ」

3 単元の指導目標

(1) 紙を主な材料として立体的な構造の表現に挑戦し、灯りが生み出す様々な色彩や造形の表現に触れることで、より自由に楽しく美術に取り組む姿勢を育てる。

(2) 他者の作品を通して作者の意図、表現の工夫などを読み取り、独創的・多面的な見方や考え方を養う。

4 単元の評価基準

観点	ア 美術への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
単元の評価基準	・照明が人に与える影響について問いかけながら、身近な灯りの効果やデザインに興味や関心を深め、創意工夫し作品に取り組もうとする。	独創性や創造力を強く働かせ、光と影が持つ特性を意識しながら多様な色彩、造形の表現を目指そうとする。	作品の完成形を見据えて、適切な材料を選び、適切に使い分け、造形における細部の仕上げを丁寧に表現することができる。	他者の作品を通して、その心情や意図、工夫などを読み取り、批判的な考え方も含む、多面的な見方や考え方を広げている。

5 指導観

(1) 単元観……本題材は学習指導要領「A 表現 (1) イ」を指導する。「構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和の取れた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること」という目標に基づき、本題材では人々の暮らしと密接な関わりを持つ「灯り」に着目し、それらが持つ役割や影響について考え、私たちの暮らしをどのように豊かにするものであるかを様々な視点から理解を深めていく。また、構造を意識した立体作品の製作は独創的な発想、想像力を高め、イメージを基に豊かに構想する能力や表現方法を創意工夫する能力を伸ばすねらいである。年間指導計画において、本単元は2年間美術を通して培ってきた発想や技能を生かし、成果の発表を文化祭に向けて取り組むものとする。

(2) 生徒観……生徒らはこれまで美術の多種多様な表現に実際に触れ、体験を通して美術が持つ表現の豊かさや創造する楽しさを学んできた。本題材では美術の創造性や表現性だけでなく、生徒が身の回りの生活にもっと目を向け、発明や創造が私たちの暮らしにもたらす影響について考えることをねらいとする。灯りが持つ多様な工夫と役割を考え、自らも構成や装飾を意識して灯りの表現に取り組むことで、生活における新たな視点を生み出すものだと考える。

(3) 教材観……灯りを表現方法とした本題材の制作は絵画や彫刻とは異なるものであり、独創的な発想を生かす最適な題材であると考えている。光と影の特性を意識し、様々な材料を駆使することで、暗闇に煌々と灯る作品を表現できるという面白さを知ってほしい。また、制作のテーマを「植物」に設定することでモチーフを観察、分析、再構築する能力を育み、生徒の発想を手助けすることをねらいとしている。

6 単元の指導計画と計画評価（8時間扱い）

次	時	学習活動・学習内容	学習活動に即した具体的な評価基準〔評価方法〕
1	1	○知識導入：人類と灯りの歴史について触れ、私たちの暮らしに存在する様々な灯りとそれらが持つ役割と工夫について理解を深める ○作品のモチーフとなる植物の観察を目的としたフィールドワーク	○照明が人に与える影響について問いかけながら、身近な灯りの効果やデザインに興味や関心を深めようとする。【関心・意欲・態度、鑑賞の能力】
2	2 3	○作品のモチーフとする植物を2つ以上選び、資料や実物を基にスケッチに取り組む ○光の特徴を意識しながら作品のイメージをアイデアスケッチとして構想する	○独創性や創造力を強く働かせ、光と影が持つ特性を意識しながら多様な色彩、造形の表現を目指そうとする。【発想や構想の能力】 ○アイデアスケッチや授業の記録を制作過程として記録している。【関心・意欲・態度】
3	4 5 6 7	○アイデアスケッチを基に、適切な材料を駆使し制作に取り組む	○作品の完成形を見据えて、適切な材料を選び、適切に使い分け、造形における細部の仕上げを丁寧に表現することができる。【創造的な技能】
4	8	○机に作品を並べる形で作品の鑑賞会を行う ○他者の作品に対して、良い点、足りない点、自分なりの改善案を記述する	○他者の作品を通して、その心情や意図、工夫などを読み取り、批判的な考え方も含む、多面的な見方や考え方を広げている。【鑑賞の能力】 ○自身の感性で感じ取った事を具体化し、言葉として書き出している。【関心・意欲・態度】

7 指導に当たっての工夫等

○作品条件

- ・材料：プリント紙、和紙、画用紙、針金、麻紐、竹ひご、のり、グルーガン、マスキングテープ
- ・モチーフ：作品の一部に『植物』を取り入れる

○モチーフの調査や分析には、インターネットの活用、または図書室との連携のもと植物図鑑や写真集を用意する。

○作業は基本的に各机に必要な材料を持ち帰って作業することになる。

○グルーガンやペンチなど道具の扱いについて記載したプリントを配り、十分に説明をする。

○コロナウィルス対策として、作業机には飛沫防止用のシートを設置する。

○構想から制作に移る段階で、授業者は生徒のアイデアスケッチを確認。どの材料を扱い表現するか生徒とともに確認し、必要に応じて助言する。

○制作の時間では時折教室の照明を消して作品がどのように表現されるか確認する時間を設ける。

○鑑賞の授業では、密を避けるために班ごとにテーブルを移動し鑑賞の時間を取る行程を繰り返す。